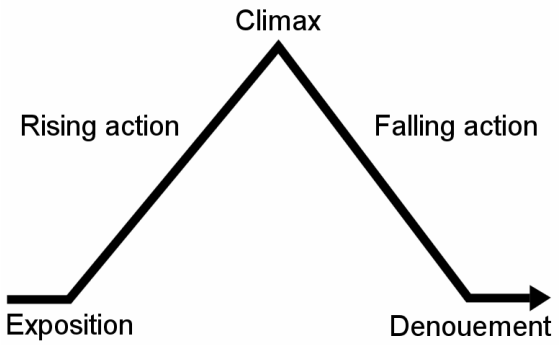
「悲しみの三つの丘」とグスタフ・フライタークのピラミッド

ジャンバーギーン・オーガンバータル（Jambaagiin UUGANBAATAR）
（モンゴル科学アカデミー言語文学研究所研究員）

西洋の演劇理論史においてグスタフ・フライターク（Gustav Freytag, 1816-1895）はきわめて大きな位置を占めている。その理由は、彼が戯曲のプロット（筋／筋書）の構造をその始めから終わりまで明確にした型を案出したところにある。戯曲ではさまざまな葛藤や対立のプロットが展開され、テーマ、主題、人物像、描写、手法の点で自由ではあっても、その葛藤や対立を解決するプロットの反復には定められた順序があり、その構造は一定で変化することがなく「先天的な」ものがある。作品の構造が適正であればあるほど、その作品はその程度に応じて緻密で正当な論理を持つ興味深いものとなる。

フライタークのピラミッドとアリストテレスのプロットの三角形

アリストテレスは『詩学』という著作の中で、ドラマの統一したプロットの構造を三角形で示し、左辺の下部をギリシャ語で *protasis* すなわち「始め」（序幕）、頂点部を *epitasis* すなわち「中間」（葛藤の頂点）、右辺の下部を *catastrophe* すなわち「終わり」（葛藤の解決）とした。これに対して、フライタークは「アリストテレスの三角形」をさらにピラミッドに進化させ、「序幕」「上昇」「絶頂（クライマックス）」「下降」「破局（カタストロフ）」というように、プロットの「上昇」と「下降」の二段階を加えることによって、ピラミッドの四つの辺と一つの頂点から構成されるとした。このような五つの部分をプロットの構造分析に利用して、左辺の下部をプロットの「序幕」（説明）、左辺の中間部をプロットの「上昇」、最上部の頂点をプロットの「絶頂」（転換点）、右辺の中間部をプロットの「下降」、右辺の下部をプロットの「破局」（終局／解決／大団円）と名づけた。



これは戯曲の構造を構想したり認識したりする際にもっとも簡便な興味深い型である。戯曲はその発展過程において、現在にいたるまで構成と構造の面で豊かになって変化し、その作品は多くの主題形式へと変遷し続けてきた。

あらゆる戯曲にとって葛藤のプロットと正しい対話は重要である。戯曲の葛藤のプロットは、第 1 幕で主役、テーマ、主題、問題、葛藤、対立と直接関わる一つの特別なプロットによって始まり、たいてい第 3 幕で避けることのできない極度の緊張に満ちた混乱が巻き起こり、終幕でこれらすべてが何とか解決して終局を迎える。このように戯曲に始めから終わりまで展開するプロットの明確な順序と構造があるのは、文学の他のジャンルとは区別される特徴の一つである。「フライタークのピラミッド」の悲劇の型を使って世界の古典悲劇のプロット構造を分析し認識してみると、研究の方法論の面で興味深い結果を導き出せるので、研究者の中には広範に活用している人もいる。

〔本発表で私は、〕二十世紀のモンゴルの戯曲は、テーマと内容および人物像と描写の面で、東洋的な微妙な意味あいがあり、自らの伝統を保持しながら発展してきたが、形式、構成、構造の面では、西洋の戯曲の詩学の方式に基づく形式の中にあることを、D.ナツァグドルジの悲劇「悲しみの三つの丘」をその代表的な例として取り上げた。「フライタークのピラミッド」の悲劇の構造の型を利用し、この戯曲の構成とプロットの構造を観察することによって、一方では戯曲が文学のジャンルの中でもっとも体系的で、戯曲作品の構造が比較的安定していることを提示し、他方ではモンゴルの近代戯曲の詩学が世界文学の詩学思想とともにあるということも確認した。